

長野県立歴史館たより

2019年 夏号 vol. 99

特集

開館25周年記念 収蔵品展

長野県立歴史館の名品

《川中島合戦図屏風》（部分）
紙本着色、六曲一隻、江戸時代後期

常設展示室から

原始

南関東の赤い土器

この春、東京都大田区立郷土博物館から弥生時代後期の壺一点をお借りしました。この時代（約1,800年前）、壺や高杯をベンガラ（酸化第二鉄）で赤く彩色することが流行します。この点では、地元千曲川流域の箱清水式土器も、南関東の久ヶ原式土器（写真）も同じです。

ところが、器の表面に描かれた模様やそれに使われた道具を比べると、大きな違いがあります。箱清水式土器は櫛歯状工具で描いた波状文・簾状文が中心ですが、久ヶ原式土器には繊細な縄文が施されています。

両者を見比べながら、それぞれの地域における飾り方のこだわりをお楽しみください。



都立田園調布高等学校内遺跡出土土器
(大田区立郷土博物館蔵)

古代・中世

瓦塔にみる平安時代の仏教信仰

篠ノ井遺跡群から出土した瓦塔を展示しています。瓦塔は五重塔などの木造の塔を模して、粘土で作られたもので、「瓦製塔婆」ともいわれます。屋蓋（屋根）と屋蓋同士を繋ぐ「軸部」から成り、頂部には九輪が載っています。工具を工夫して垂木の支えや丸瓦なども表現しています。元々ばらばらに割れて出土したため、欠損部を樹脂で補い不足の部分は複製して、復元しました。付近からは仏事に使用される銅鉢、別地点からは埴仏も発見されました。今回は一部のみ展示していますが、組み立てると全体像が分かるものとしては、塩尻市菖蒲沢窯跡例に次いで、県内2例目です。

平安時代のはじめ（9世紀）に営まれた集落のお堂の中に安置されたと考えられ、人々がより身近に参拝する対象だったとみられます。



篠ノ井遺跡群
(新幹線地点) 出土瓦塔
(当館蔵)

街道の風景のコーナーでは、小県郡長和町にある中山道長窪宿（長久保宿）に掲げられていた高札を展示しています。幅178.4cm、高さ47.2cm、厚さ5.2cm、重さ21.5kgもある重厚な高札で、1711（正徳元）年に幕府から宿駅（宿場）に設置された問屋（輸送に関わる人馬の調整役）に出された覚（通達）が記されています。内容は、①運ぶ荷物の重量規定（馬一疋（匹）が運ぶ荷物の重量は約150kg、人ひとりが運ぶ荷物の重量が約19kg）②街道で利用できる人馬数の規定（宿駅に常備する人馬は25人25疋に限るなど）③人員

と馬の料金における罰則などです。

江戸時代には徳川家康によって全国に拡充された伝馬制度（公用の荷物輸送制度）により公用・私用の荷物輸送が次第に盛んになっていきます。そのなかで、荷物の過積載や人馬供出の負担による人々の疲弊や料金の不正徴収など荷物輸送に関わる問題が発生しました。この状況下で出されたのが今回の高札に書かれた通達でした。重厚で立派な高札からは、輸送者の疲弊や不正を考慮しながら伝馬制度を維持しようとした幕府の姿勢を感じ取ることができます。



中山道長窪宿高札（当館蔵）

昭和20年代半ば、国内でも電気洗濯機が販売され、家事労働の軽減が進みます。このころの主流は、円筒形の本体の底に、背の高い回転翼を取り付けた「攪拌式」でした。写真2は、1952（昭和27）年に松下電器産業（現パナソニック）が発売した電気洗濯機の第2号機。発売価格は28,500円でした。その後洗濯機の改良とコストダウンが進み、昭和30年代になると、洗濯槽の底部にパルセータ（羽根）を持つ「渦巻式」が登場します。写真3は、昭和30年代半ばの洗濯機で、本体右側には、ハンドルを回して洗濯物を絞る「ローラ絞り機」が付いてます。

ところで、意外なことに、昭和30年代初頭になってもまだ手動の洗濯機が開発・販売されていました。写真1は、1957（昭和32）年群馬県高崎市の林製作所が「カモメホーム洗濯機」として製造、販売を開始したもので、昨年度の新収蔵品

です。手回しで回転させれば汚れが落ちるという洗濯方法に独自性がみとめられるものの、電気洗濯機が安くなり普及するにしたがって急速に市場から姿を消してゆきました。



- 1 球体洗濯機
（昭和32年）（当館蔵）
- 2 攪拌式洗濯機
（昭和27年）（当館蔵）
- 3 一槽式洗濯機
（昭和35年頃）（当館蔵）

1



2



3

開館25周年記念 収蔵品展

2019(令和元)年7月6日(土)~8月18日(日)

長野県立歴史館の名品

信濃国・長野県は、古来より東日本と西日本を、あるいは太平洋側と日本海側を結ぶ結節点として、独自の風土と文化をはぐくんできました。

1994(平成6)年に開館した長野県立歴史館は、そうした信州の歴史的背景と変遷を明らかにし、歴史学習を深められる場を提供するため、様々な活動を行ってきました。そのひとつに、信濃の歴史や生活風土の諸相を示す史資料や、長野県と関係深い美術工芸品の収集と公開があります。

本展は、当館の開館25周年を彩る企画展の第一弾として開催されるもので、旧石器時代の石器や、縄文土器、弥生時代の翡翠製勾玉^{ひ すいせい まがたま}、中世文書、合戦図などの屏風、さらには近代絵画など、重要文化財・長野県宝を中心に初公開作品を含む所蔵の優品25件を一堂に展示します。長野県立歴史館コレクションの心髄をお楽しみください。

本展開連イベントとして、会期中当館学芸員によるギャラリートークを5回開催いたします。毎回異なる展示品について、各々の専門分野に即して詳しく、そしてわかりやすく解説します。詳しくは当館ホームページ、チラシ等をご覧ください。

主な展示資料紹介



信濃町・日向林B遺跡出土品 旧石器時代 重要文化財

日向林B遺跡で発見された石器は、環状に配列される「環状ブロック群」から出土しました。斧形石器は、北陸から北安曇方面に産出する透閃石岩を素材とし、半数以上が刃部を磨いた世界最古級の磨製石器です。台形石器は、県産の黒曜石を素材とし、規格性の高い大型品が多く見られます。



富士見町・札沢遺跡出土動物装飾付釣手土器
縄文時代 長野県宝

札沢遺跡の出土品は1930年代に発見され、その後、1994(平成6)年に所蔵者から長野県に寄贈されました。高さ16.6cmの香炉形で、釣手部上には、ヘビ様の動物意匠が三体正面を向いて配置され、香炉部後方から這い上がろうとする一体を加え、今にも動き出さんばかりの優れた造形です。縄文人の豊かな感性と表現力がうかがえます。



塩尻市・上木戸遺跡出土 翡翠製垂飾
縄文時代

塩尻市上木戸遺跡で発見された縄文集落が最盛期を迎える縄文中期後半に構築された土坑(墓)から出土しました。

長さ3.0~5.2cmの小形品であり、片側に寄って一孔が穿たれ、全面研磨された「鯉節型」に整形されています。孔は一方向から穿たれ貫通しています。翡翠製垂飾が出土する遺跡はまれで、ほぼ例外なく拠点的な大規模集落跡です。



とばいのちようくだしがみ
鳥羽院庁下文

1145 (天養2) 年 重要文化財

1145 (天養2) 年に鳥羽上皇 (院) の政務を担当する院庁が荘園の管理権を裁定した文書です。信濃国小川荘 (現上水内郡小川村近辺) の現地管理者である増證に下されました。1993 (平成5) 年、諏訪市の吉田家より長野県に寄贈されました。



かんのんたいさようづか かいゆうし じ こ
坂城町・観音平経塚出土 灰釉四耳壺

平安時代

平石で囲われその上に石で蓋をされ、内部に焼骨が充満した状態で発見されました。本来は酒器であったと考えられます。中国産白磁四耳壺を模倣し、口縁から肩部にかけて薄い自然釉が掛っています。器形の特徴から、国内で生産が始まったばかりの、12世紀後半代の灰釉四耳壺です。灰白色の胎土は美濃窯 (岐阜県東濃地方) の特徴です。



のぶいえ
刀「信州諏訪住藤原信舎」

安土桃山時代 長64.6cm 反1.9cm

信舎は、美濃出身の刀工です。その二代目は、安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて、高島藩に召し抱えられ諏訪で作刀しました。

【造込】 鎚造り。【地鉄】 板目に杓目交じる。【刃文】 直刀所々ふしがかり。【帽子】 直ぐに丸く深く返る。【茎】 生ぶ、目釘穴二個。【茎尻】 刃上がり栗尻。【鑢目】 桧垣。



ろっこう
埴科郡西条村六工製糸場之図 (部分)

1878 (明治11) 年頃 紙本着色

「六工製糸場」は、富岡製糸場をモデルに1874 (明治7) 年に西条村に創業した、県内で最初の民間資本によるフランス式器械製糸場です。操糸の業務は、富岡製糸場に学んだ和田英らが指導にあたりました。本作は、1878 (明治11) 年9月の天皇巡幸に際して天覧に供するために制作され、作者は松代の飯島二水と伝えられています。操糸場以外にもさまざまな情報が描かれていて、創立当時の六工製糸場の様子を知る貴重な絵画資料。1994 (平成6) 年、県立長野図書館から当館へ移管されました。

石器石材の研究から

弥生時代に磨製石^{ぞく}簪と呼ばれる石器があります。長野県は、その出土数が全国でも屈指で、ほとんどの遺跡から必ずと言ってよいほど出土します。緑色片岩や千枚岩^{せんまいがん}、珪岩^{けいがん}などと鑑定されることが多く、外見は似ていますが別の岩石名で報告されることが多々あります。千曲川流域の磨製石簪は実見の限り、ほぼ同じ岩石のように見えるため、遺跡から出土した実際の剥片^{はくへん}類を材料に岩石鑑定を行ってみました。岩石学の見識者に依頼して、肉眼観察に加えて岩石薄片（プレパラート）を作成、（偏光）顕微鏡観察を実施していただきました（町田2000）。その結果、破屑状組織^{はさいじょうそしき}を示し基質に緑泥石や石英、斜長石等からなる岩石^{けいしつ}で、珪質頁岩（珪質岩）と鑑定されました。

ただし外観に2種類あり、双方とも緑色で同質のようですが、一方は色味が薄く、より珪質^{けいしつ}でした。石材の産地や石器の製作地、製品の流通などを考察する考古学では、これら2者を区別したいところでしたが、同じ鑑定名称となりました。そこで、黒曜石の産地分析に使用されていた蛍光X線分析装置で元素分析（ここでは9元素）を行ってみました。その結果、珪素（ SiO_2 ）の強度に明らかな違いがあり、その上、アルミニウム（ Al_2O_3 ）やマグネシウム（ MgO ）、マンガン

（ MnO ）などにも違いがみられました。つまり外観の違う2者は、岩石鑑定上は同じ石材名でしたが、元素強度に違いがあり元素比を測ることで区別できる可能性がみえたのです。2者の岩石を珪質岩Aと珪質岩Bに仮称して、考古学研究に資することにしました。最も一般的に出土し犀川等でも採取が可能な石材をB、より珪質で弥生中期後半から後期にかけて長野や佐久、そして群馬県方面に観られる石材をAとしました。Aの産出地は未定ながら、2者ともに使用の時期と分布地域が比較的限定でき、特定の産地から発信された石材（または製品）であることを再確認できました。

黒曜石材のように微量元素の測定を用いた産地同定とは別に、蛍光X線による簡易な元素（定性）測定を行って、考古学に必要なデータを採取し石材研究が進められるとしたら、魅力的ではないでしょうか。

長野県に人類が訪れた3万年以上も前から、石を打ち割り石器が製作されてきました。製作のための岩石も多種にわたりますが、中でも長野県を代表する石器石材がいくつかあります。

第一に黒曜石。旧石器時代から縄文時代まで、狩猟具や加工具の好材料として用いられたガラス質の岩石で、信州の原始文化を豊かにしたブランド品です。下諏訪町の星ヶ塔^{ほしがとう}や長和町の星龔峠^{ほしくそうげ}は、縄文時代に大規模な採掘の行われた鉱山で国史跡に指定されています。第二に輝緑岩や玄武岩^{きりよくがん げんぶがん}といった硬い岩石（深成岩）があります。弥生時代には樹木を切り倒す石斧に用いられ中部日本地域の需要を支えるほどの経済的ブランド品が作られました。生産地は長野市若穂（榎田遺跡）にあります。そして、この磨製石簪に用いられた珪質岩も信州ブランドのひとつとして加えられそうです。

（町田勝則）

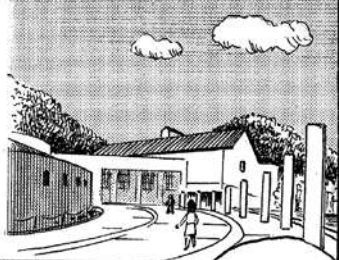


松原遺跡出土の磨製石簪（当館蔵）珪質岩A（左）とB（右）

※町田勝則2000「第3章遺物の理化学的分析」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5 松原遺跡』

公文書館機能

長野県立歴史館は、歴史博物館であると同時に、長野県の歴史公文書などを収集・整理・保存し、利用してもらうという「公文書館機能」を持っています。



公文書って
読むんです！

くもんしょ？

長野県立歴史館には
どんな公文書などが
あるんですか？

へえー一般の
図書館とはちょっと
違うんですね！

長野県(信濃国)に
関係する、中世の
文書などもあるし、
近現代の長野県議会で
決まったことや、実施
されたこと、地方自治
体の報告などといった
書類類も大切に収蔵
されています



ざっしり

現在、公文書は
10万点、古文書は
23万点あって、どん
どん増えています

書庫には
どのぐらいの
数があるん
ですか

公文書などは、
温湿度管理された
「行政文書書庫」と
「古文書書庫」の
2つの書庫に主に
収められています

公文書などは
書庫で保管される
前に、害虫駆除・
防カビ等殺菌のた
め、専用のガスを
使う減圧式燻蒸
(くんじょう)装置で
燻蒸しています



収蔵品には、
戦禍をまぬが
れた戦前の貴
重な公文書も
あるんですよ！



その中でも特に
幕末から昭和21年
までの公文書など
1万783点は、
「長野県行政文書」
として「長野県宝」
(県指定重要文化
財)になっています

書庫の
表トビラの
厚みは
18センチ！
銀行の金庫
みたいでしょ
文化財が入
っているから

県の宝？
どんなもの
があるん
ですか？



例えば、長野県は
明治維新で新政府が
でき、県としての形が
決まるまでの数年間、
色々な「県」が存在
していたんですが、
そんな話を聞いたこ
とがありますか？

長野県立歴史館は、県庁
や各現世機関で作成され
た行政文書類について
県民共有の財産として
残し、公開してゆくこ
を目的に、「公文書館
機能」を備え設置(平
成6年)されました。
これらの文書群が次の
世代に引き継がれる
ことで、開かれた行政、
新たな地域文化の創造に
資することになるのです。

なんかスゴイ
県の歴史の証
拠を残してる
んだね。

「伊那県」、「飯山県」、
「高遠県」、「中野県」、
「筑摩県」といった県が
ほんの少しの間あ
ったんですよ！
県宝には、これらの
県で残された貴重な
行政文書も含まれて
います

ボクも
申し込んで
原本を見させ
てもらおう

立・制作
文献史料課

閲覧サービス



ホームページの中の「歴史館の書籍・
史資料をお探しの方」から入って、
検索することができます。
検索した史資料は、来館して閲覧
室にて申し込むことで閲覧できます。
(ホームページ= www.npmh.net)

図書の複写(コピー・有
料)や、史資料の写真
撮りの申し込みもでき
ますよ〜♪



※フラッシュ禁止

INFORMATION

インフォメーション

■2019年 6月～9月の行事予定

6月

休館日
3・10
17・24

巡回展

長野県の考古学
—時代を映す“匠”の技—
《北信会場》長野県立歴史館
3/16(土)～6/23(日)

ミニ展示

平成とともに歩んだ歴史館
～開館準備からの30年、そして新たな歴史館へ～
4/27(土)～6/23(日)

講座・イベント

古文書講座

初 級 A 第1回 6/2(日)
B 第1回 6/13(木)
中 級 A 第1回 6/1(土)
B 第1回 6/13(木)
上 級 第2回 6/15(土)

県立歴史館の信州学講座

第2回 6/8(土) 13:30～15:10
「石器から読み解く
縄文時代の生業と黒曜石の生産活動」

考古学セミナー

6/16(日) 13:30～15:15

7月

休館日
1・8
16・22
29

開館25周年 収蔵品展

「長野県立歴史館の名品」
7/6(土)～8/18(日)

■ギャラリートーク

第1回 7/6(土) 13:30～
「初公開 これが六角宝幢だ！」
第2回 7/13(土) 13:30～
「石器の話
～信州ブランド、伐採用石斧の魅力～」
第3回 7/20(土) 15:30～
「縄文土器の名品を語る」
※開始時間にご注意ください

第4回 7/27(土) 13:30～
「久しぶり！天養文書の原本を語る」
第5回 8/10(土) 13:30～
「吉田初三郎の鳥瞰図と戦前の
『観光信州』」

古文書講座

初 級 A 第2回 7/7(日)
B 第2回 7/11(木)
中 級 A 第2回 7/6(土)
B 第2回 7/11(木)
上 級 第3回 7/20(土)

考古学講座

第2回 7/20(土) 13:30～15:00
「縄文人の材料選択と土器づくり
～胎土と製作技術から～」

8月

休館日
5・19
26

巡回展

長野県の考古学
—時代を映す“匠”の技—
《中信会場》塩尻市立平出博物館
7/27(土)～9/16(月・祝)

■ミニシンポジウム

8/10(土) 13:30～15:00
「縄文土器の魅力パート1」

古文書講座

初 級 A 第3回 8/4(日)
B 第3回 8/8(木)
中 級 A 第3回 8/3(土)
B 第3回 8/8(木)
上 級 第4回 8/17(土)

信州学出前講座in上田

上田市立信濃国分寺資料館
8/24(土)

9月

休館日
2・9
17・24
30

開館25周年 秋季企画展

「戦国 小笠原三代」
9/7(土)～10/14(月・祝)

■館長講演会

9/14(土)「武田信玄と小笠原長時」

■週替わり講座

9/21(土)「長時のネットワーク」
9/28(土)「小笠原家を中興した貞慶」

古文書講座

初 級 A 第4回 9/15(日)
B 第4回 9/12(木)
中 級 A 第4回 9/14(土)
B 第4回 9/12(木)
上 級 第5回 9/21(土)

信州学出前講座in箕輪

箕輪町地域交流センター
9/21(土)

表紙の写真の解説

川中島合戦図屏風

(江戸時代後期 紙本着色 六曲一隻屏風)

武田信玄と上杉謙信による一騎打ちを描く。内容的には、錦絵等を参考にし、一騎打ちの場面をクローズアップして描く。江戸時代後期の、いわゆる町絵師による量産的作品のひとつと考えられる。

*** 長野県の考古学 *** —時代を映す“匠”の技— ミニシンポジウム



考古資料課では、巡回展に関わる「ミニシンポジウム」を当館で開催いたしました。

県埋文センター職員、当館職員で「土器の登場 旧石器時代終末から縄文時代草創期の狩猟具の変遷」についてその特色や製作方法等を中心に話が進みました。

*** 歴史館でこどもの日 ***



5月5日(日・祝)、令和最初のこどもの日、歴史館へ475名の皆様にご来館いただきました。気持ちの良い天気の中、まが玉作りのコーナーからは楽しそうな声が聞こえてきました。歴史館での体験が素敵な思い出になっているとうれしいです。

長野県立歴史館たより 夏号 vol.99

2019(令和元)年5月28日発行

編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代260-6
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ: <http://www.npmh.net/>

印刷 奥山印刷工業株式会社